

2021 年度 日本神経回路学会 総会 議事録

場所: Zoom によるオンライン開催

日時: 2021 年 9 月 23 日(木) 開会 13 時 03 分 閉会 13 時 51 分

1. 総会成立の確認

小澤副会長より議事次第の紹介があった。次いで総会の成立について説明があり、119 名からの委任状、55 名の総会参加者がおり、84 名（正会員 424 名の 5 分の 1）以上の総会成立条件を満たすことから、本総会が成立することが宣言された。

2. 会長挨拶

五味会長から挨拶があり、本会活動の活発化に向けて会員自身も積極的に活動・協力いただきたい旨の話があった。

3. 会計報告

・2020 年度収支決算報告

小澤副会長より 2020 年度の収支計算書に基づき 2020 年度の収支決算について報告があった。また、五味会長から毬山会計監事による 2020 年度の監査報告書に基づき、収支決算報告に相違ない旨の報告があった。投票の結果、以上の報告が承認された。

・2021 年度予算案

小澤副会長より 2021 年度の予算案について説明があった。収入・支出ともに前年度と比較して若干減少する金額を見積もる内容であった。引き続き、柴田理事より、本年 6 月 30 日現在の 2021 年度の貸借対照表が報告された。いずれの内容も承認された。

4. 事業報告

・和文誌報告

太田理事より和文誌の出版体制及び出版状況について報告があった。本年 4 号の発行が予定されており、すでに 3 号を出版していること、和文誌は昨年度 4 号からオープンジャーナル化され冊子体発行から 1 か月後に一般公開されることについて説明があった。

・Neural Networks 誌報告

銅谷理事より英文誌の出版についての報告があった。論文投稿数が着実に伸び、本年度は現時点で 1,000 件を超え、採択率が 20%程度になっていること、インパクトファクターも向上し今年はいずれの最高 8.05 となったことの報告があった。また、ベストペーパーアワードの制度について説明があり、積極的な推薦の依頼があった。今後の英文誌の運営について、近い将来に電子版中心の発行形式に移行すること、理化学研究所の豊泉太郎氏が次期の co-editor in chief に就任する予定であることの説明があった。

- ・時限研究会報告

太田理事より、時限研究会支援について報告があった。通常時限研究会については今年度応募がなかったが、昨年度採択されコロナ禍の中で延期されたものの1件が今年度開催されたこと、若手時限研究会については今年度1件の応募があり、オンラインで開催されたことが報告された。

5. 若手支援について

船水理事より、若手支援活動について報告があった。第21回冬のワークショップの参加助成を計画しているが、現時点ではワークショップの開催そのものが未定であるため、状況が決まり次第募集を開始する予定であること、また、今年度より国際会議英文添削支援サービスの内容が変更になり、学術論文誌への投稿論文、英語での発表練習など幅広くサポートするようになったことの説明があった。

6. 国際会議関連のご案内

- ・30周年記念研究助成

池田特任理事より、日本神経回路学会30周年記念研究助成金制度の紹介と今年度の募集方法についての報告があった。

- ・WCCI2024

廣瀬顧問よりIEEEのWCCI2024の開催計画について紹介があった。

7. 脳科連（脳科学関連学会連合）および脳科連将来構想委員会の報告

五味会長より、脳科連の活動および本会から脳科連への参加状況について説明があった。また、小澤副会長より将来構想委員会での検討事項についての報告があった。

8. 全国大会について

- ・JNNS2021 全国大会について

大会長の鮫島特任理事より本年度全国大会について報告があった。237名の登録があったほか、各講演では100名以上の参加があり、活発な議論があった旨の説明があった。

- ・Neuro2022 概要について

大会長の池田特任理事より、来年度開催される3学会合同のNeuro2022について報告があった。沖縄コンベンションセンターで開催予定であるが、オンラインでも参加できるようにする予定であること、公募シンポジウムが募集中であることの説明があった。

以上、用意された議事はすべて承認された。

[追記] 各賞の授賞式及び名誉会員記贈呈式は総会後に執り行われた。